

会議録

1 会議の名称

第1回 犬山市かわまちづくり推進協議会

2 開催日時

令和6年11月6日（水）午前10時00分から正午まで

3 開催場所

市役所2階205会議室

4 出席した者の氏名

- （1） 構 成 員 岡田和明、阿部充、梅村治男、尾関謙治、松田昇平、日比野清正、
長瀬由武、安藤英明、丸山和成（順不同・敬称略）
- （2） オブザーバー 井川陽二
- （3） 事 務 局 新原経済環境部長、小池観光課長、小澤観光課主査補
- （4） 関 係 課 高橋整備課課長、又部整備課主査

5 議題

- （1） 開会
- （2） 会長選
- （3） 全体のスケジュール
- （4） 議事

報告1 かわまちづくり支援制度について（かわまちづくり計画とは）

報告2 犬山市におけるこれまでの取組みについて

- ・犬山市観光戦略
- ・木曽川河畔空間整備基本構想（素案プラン①～③）
- ・河畔 de カタリーヴァの取組み
- ・栗栖園地における芝張りの取組み

協議1 犬山市かわまちづくり計画について

- ・骨子について
- ・計画の方向性（コンセプト）について
- ・ソフト・ハード施策について

協議2 犬山市かわまちづくりに関するアンケート調査について ほか

- （5） その他
- （6） 閉会

6 傍聴人

1 名

【配布資料】

- 資料 1 犬山市かわまち推進協議会 設置要綱
- 資料 2 委員名簿 (R6. 11. 6 時点)
- 資料 3 犬山市かわまちづくり計画 策定スケジュール
- 資料 4 かわまちづくり支援制度について
- 資料 5 犬山市観光戦略 (概要版)
- 資料 6 木曽川河畔空間整備基本構想 (素案プラン①～③)
- 資料 7 河畔 de カタリーヴァの取組み
- 資料 8 栗栖園地における芝張りの取組み
- 資料 9 犬山市かわまちづくり計画案 (R6. 11. 6 時点)
- 資料 10 市民ニーズ調査 アンケート案
- 資料 11 木曽川河畔整備地質調査業務委託 調査概要

7 内容

事務局

皆様、おはようございます。

本日は御多用の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
定刻10時を過ぎましたので、ただいまより第1回犬山市かわまちづくり推進協議会を始めさせていただきます。

私、本日の進行と資料説明等々をさせていただきます犬山市観光課課長の小池と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ここからは着座にて説明させていただきます。

犬山市では、木曽川河畔に住む人も訪れる人も憩い、にぎわい、活躍できる今もすばらしい場所ではございますが、さらにすばらしい河川空間となることを目指しております。こうした川とまちがつながったすばらしいまちづくりをさらに推し進めるために、犬山市かわまちづくり計画を策定することといたしました。

そして、この協議会は、河畔に関わる方にお集まりいただいておりますが、皆様から意見、助言、提言を頂戴することで計画の精度を高め、充実させ、よい計画にしていくことを目的としております。今年度中に本日を含めて3回予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、まず事務局の紹介となります。

委員の皆様から後方におりますのが、まず経済環境部長、新原でございます。一言挨拶をさせていただきます。

事務局

皆様、こんにちは。経済環境部長の新原です。着座にて挨拶したいと思います。

木曽川河畔については、御存じのようにかつては、今も駅に名前が残っていますように犬山遊園、犬山ホテルというのがあって、現在ではインディゴに変わっておりますけれども、このすばらしい木曽川の河畔のエリアについて新たな価値、新たな憩いの場として、そういったようなことをずっと僕も夢を見ていました。それがやっと少しずつ動き始めています。

なので、今回3回の会議を経て計画づくりに到達したいと思っておりますので、皆さんどうか御協力をお願いします。以上です。

事務局

続きまして、観光課担当、小澤でございます。

事務局

小澤です。よろしくお願いいたします。

事務局

整備課課長、高橋でございます。

事務局	高橋です。よろしくお願いします。
事務局	同じく整備課主査、又部でございます。
事務局	よろしくお願いします。
事務局	事務局は以上でございます。よろしくお願いいたします。 なお、本日の会議には、メンバーでもございますが、オブザーバーとして木曾川上流河川事務所総括保全対策官、井川様にも御参画いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。
井川オブザーバー	よろしくお願いします。井川です。
事務局	ありがとうございます。 本会議には、本市のかわまちづくりに欠かせない皆様に委員としてお願いし、御快諾いただき、御出席いただいております。ありがとうございます。 お手元の配席表及び委員名簿を御参照いただければと思います。 本日、そのうち犬山商工会議所の奥村様は欠席で、総勢10名のうち9名の出席をいただいております。 委員の過半数の御出席がありますので、会議が成立していることを報告いたします。 本日の会議ですが、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、昼の12時までには終わらせていただきたいと思いますのでお願いいたします。 また、本日の会議は公開で開催されます。 基本的に会議の撮影は進行に支障を来さない自席からの撮影は認めております。また、録音は個人のメモとしての利用に限り認め、切り取っての公開はやめていただくようお願いしております。これは、残り2回についても同様の取扱いとしております。 また、会議の内容については、後日、資料と会議録を犬山市のホームページで公開する予定となっておりますので御了承ください。 続いて、資料の確認をさせていただきます。 (資料確認) それでは、早速次第に沿って進めてまいります。まずこれから次第2の会長選出となります。 会長の選出ですが、どなたか御推薦はいただけますでしょうか。

	お願いいたします。
梅村委員	岡田委員を推薦したいと考えておりますが、いかがでしょうか。
事務局	ありがとうございます。梅村委員から、岡田委員を推薦したいと御推薦いただきましたが、皆様いかがでしょうか。 (一同拍手 異議なし)
事務局	ありがとうございます。 それでは恐縮ですが、岡田委員、会長として要綱に基づき引き続きお世話になりますが、会長席へ移動をお願いいたします。 それでは岡田会長、御挨拶を一言いただければと思います。よろしく願いいたします。
岡田会長	おはようございます。名古屋経済大学地域連携センター長をしております岡田と申します。よろしくお願いいたします。 僕が小学校の低学年の頃、木曽川には夏になるとプールが現れました。本当に石で囲ってあるだけのところで、夏になるとそこへ行くのが毎日の楽しみだったんですね。 ある日、上級生たちが対岸の城山荘、城山まで行って往復してきたよというのを聞いて、僕も高学年になったらぜひ一回チャレンジしてみたいなあという思いをいつも思っていたんですけれど、4年生になる頃にプールが閉鎖になりました。多分、頭首工ができた影響だろうというふうに思っています。 その後も夏祭りで巻藁船が出たりだとか、精霊流しで木曽川まで行ってわらで作ったちょうちんだとか、お供え物を乗せて流したりとか、僕の夏の思い出というのは、やっぱり木曽川と常に一緒だったという思いがあります。 その後、何となく川は危ないものだ、近寄っちゃいかんものだというような風潮ができてしまいまして、ちょっとしばらく遠ざかっているようなところがあったんですけれど、やはりここへ来て、地元の方たちが川を交えたまちづくりをしていこうというような動きが出ていますし、来ていただいた方に楽しんでもらいたい、また一つの犬山の魅力として伝えたいという動きが出てきたというふうに思っております。 今日はかわまちづくり協議会が発足をして、皆さんと議論を深めて川とまちづくりと文化と観光と、そんなものがミックスできたプランが出来上がるというなあというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

事務局	ありがとうございました。 それでは、会長として3回の会議、どうぞよろしくお願いいたします。 以降の進行になりますが、協議会の要綱に従いまして、岡田会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。
岡田会長	それでは、まずは私を助けていただける副会長の選任ということでお願いをしたいと思いますが、どなたか御推薦いただける方はございますでしょうか。
梅村委員	リバーフロント研究所の阿部委員はいかがでしょうか。
岡田会長	皆さん、いかがですか。ぜひとも経験、いろんな事例も御承知の阿部さんに副会長をお願いしたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。 (一同拍手 異議なし)
岡田会長	それでは、阿部さん、どうぞ今後よろしくお願いいたします。
阿部副会長	よろしくお願いいたします。
岡田会長	それでは、早速会議内容に入りたいと思います。 次第に沿って進めたいと思いますが、今日多くの資料もございますので、皆さん進行の御協力をよろしくお願いいたします。 それでは、資料3全体スケジュールについて、事務局より説明をお願いしたいと思います。 また、続きまして報告1にも関連するため、一括して事務局より説明いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。 (資料説明)
岡田会長	ありがとうございました。 大変たくさんのボリュームの説明をいただきました。 ここまでの、これから協議をいただく前の前提となる説明ということでございますけれども、何かこの点のことで確認をしておきたいこと、また御質問等ありましたら皆さんからお聞きしたいと思います。いかがでございましょうか。

尾関委員	名古屋鉄道、尾関でございます。 資料3のかわまちづくりへの申請制度について、御質問をさせていただきたいと思います。 こちらは国のほうに申請と登録ということでありますけれども、申請時期というのは決まっているものなんでしょうか、それとも随時、計画が出来次第、受け付けていただけるものなんでしょうか。
事務局	来年度でいうと4月から6月が申請時期と聞いておりまして、それで中身を精査していただき、7月頃に登録ということで、年に1回申請のタイミングがあると認識していますので、そのタイミングで申請して登録したいと思っています。以上です。
尾関委員	ありがとうございます。
岡田会長	尾関委員、よろしかったでしょうか。
尾関委員	はい。
岡田会長	他の委員さんから確認しておきたいということがありましたら。
松田委員	観光協会の松田と申します。 資料6ですね、こちらに河畔空間整備基本構想というのを示していただきまして、最終の48ページにステップですね、ロードマップがあるわけなんですけど、ここでエリアマネジメントのほうの実現というふうな言葉もありますが、ちょっとエリアマネジメントについて御説明いただければと思います。
事務局	ありがとうございます。 御指摘、御質問いただいたのが、資料6の最終48ページ、エリアマネジメントの実現とあります。これは後でも少し出てくるんですが、栗栖地区、内田地区それぞれ対象となっているエリアがございます。内田ですと、先ほど申し上げた460メートルの細長い空間、栗栖地区でいいますと栗栖園地という3万平米ぐらいの広大な芝生広場、こちらが基本的な当該場所になりますけど、そこを河川法の占用許可の準則が改正されて、そちらで区域を指定して、そこを管理する団体というのを認定することが出来ます。認定を受けると、そこでビジネス、商売とかができるよということで、もちろん色々なルールはございますが、そこで御商売をしていただき、収益を上げ、その収益をその当該場所の維持管理に使っていただく。

加えて、さらにはそのエリアの例えば栗栖でいうと小学校とか、後ほど出てきますが、栗栖でいうとミラマチ栗栖さんという団体が進めている竹林の整備とか、そのエリア全体にまた再投資して、その地域の活性化につなげていくということで、地域で稼ぎ、地域で潤い、地域でまた再投資して、またさらに活性化していくという、そういった好循環を地域の人も関わりながら進めていただくといいところを考えており、エリアマネジメントの実現というところで設定しております。

これは、観光戦略でも目標指標で掲げておりまして、今申し上げた2か所というのは、この観光戦略が令和13年までの計画期間ですが、ぜひとも実現したいと考えています。以上です。

岡田会長

ありがとうございました。

ほかの委員さんから確認等ございますでしょうか。

それでは、続いて、ここから協議のほうへ入りたいと思います。

協議1の犬山市かわまちづくり計画についてということでございますが、事務局より説明を受けたいと思います。よろしくお願いします。

(資料説明)

岡田会長

ありがとうございました。

今、事務局から説明があり、ここは協議とは書いてありますが今日結論を出すというわけでもございません。よりよい申請書づくりとか、かわまち計画づくりということで皆さんから御意見いただきたいと思っています。

せっかくでございますので、それぞれの関係団体を代表して、それぞれのお立場を代表してということで伺いたいと思いますので、一言ずつ御意見いただきたいと思っています。

最初に私からお願いします。

栗栖地区①、②というふうに分かれておりますけれども、その間に野外活動センターという市の施設がありますね。実は、令和5年にあそこを利活用ということで、民間事業者に対して犬山市でサウンディング調査を出しています。本学としても、犬山の自然を活用した次世代体験プログラムに活用できないかということで提案をさせていただいておりますが、その後に市からは何も連絡をいただいていません。

エリアとして、これは入れたほうがいいのか入れないほうがいいのかは分かりませんが、別に栗栖地区は①、②と分断する必要はなくて、ずっと貫いてもいいのかなという点と、将来的にエリアマネジメントをされる団体さんの拠点という形の中でも、それは市民の方が使えるということもありますの

で、野外活動センター自体を何らか位置づけができないものかと思っています。

これは全般に言えることなんですけれども、やはり観光課さんが主導であることでどうしても観光のほうへ目が行ってしまうんですけれども、やはり木曽川は木曽川であって木曾川なんです。やっぱり木曽川の特徴をどう生かしていくかという、自然とか地形というものを何かかわまちづくり計画の中にも、もう少し反映ができるといいのかなあとと思っています。

先ほどの野外活動センターのときは、特に木曽川の地層として貴重な2億5千万年前のチャートの地層があるので、そういうものを活用できないかとか、アンモナイトなんかが発見されています。そういうことも計画づくりの中に反映ができると本当に木曽川らしいなあというようなものが出てくるような気がしておりますので、それを私からの意見としてお願いしたいと思います。

それでは、委員の皆様から一人ずつ、それぞれのお立場のほうで御意見いただければというふうに思います。よろしくお願いします。

梅村委員

私からは勉強不足かもしれませんが、1つだけ教えてください。

20ページのところに、河川占用敷地許可準則22条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定というふうになっておりますが、これはどんな内容になるのかを御確認したいと思います。

事務局

20ページの都市・地域再生等利用区域の指定ということでお話をいただきましたが、これは先ほど冒頭にも少しお話を触れさせていただきましたが、河川空間という中では、基本的には御商売とかビジネスとか、そういうのは中々難しいよと、活動にも制限があるというところで、それはある意味当然なんです。治水という意味では護岸もしっかりやらなきゃいけないし、みだりに入って事故が起きてもいけませんので、制限があるのは当たり前なんです。ただ、制限ばかりではいけないというところで、もちろん安全の確保とか担保というのは大前提ではありますが、その中で河川区域の中で、いろいろ安全に利活用できる場所はそれぞれの河川の中でもあるだろうというところで、その中でこの区域に指定をすることで、そこで御商売というか、ビジネスみたいなものができるようになるというところで、河川法、河川敷地占用許可準則の22条でこういったような指定の要件が新たにでき、そちらで指定をされ、さらに管理団体として認定を受けることで、先ほど申し上げた様々な活動、ビジネス的な展開も含めた活動ができるということで、十数年前に国交省さんのほうで設定されたというところだと認識しております。以上です。

梅村委員

ありがとうございます。

それと、今この計画の中にも犬山橋トイレの改修というものも組み込んでいただいております。お客様からやっぱり犬山橋トイレの改修ということが、度々御要望が上がってきている部分でございますので、これが一步でも近づいていただければありがたいというふうに思っております。

あと2点ほどでございますが、この遊歩道整備というのは、現在の歩道位置を整備するということになるのでしょうか。先ほどの段差をなくすという案もございましたが、一部御意見で、現在のお店があつたりする部分のにぎわいを取り戻すためには、そちらもきちっと整備して、川側を車道にしたらどうだというような意見も聞いているところですので、その辺のところはこれからの検討になっていくかと思いますが、少しお話ができるのであればありがたいと思っております。

それと、犬山市のところは先ほどちょっと触れられましたが、遊歩道のところが、この数年前の大出水によりまして、そこから歩道のところにもう常に水が流れているような状況で、歩行者が滑って転ばれるようなケースがございます。この辺の歩道そのもののやっぱり改修というんですかね、そういうものに併せて、そういう出水を止めるというんですかね、何かそっちが併せて取組ができないだろうかというのがちょっと私の思いでございます。

最後に、お客様がやっぱりこんな近くに山が見えるというのを、都会からお見えになる方というのは非常に魅力を感じるところでございますが、それとはちょっと別にしまして、今、中流域のほうでいろいろ行事を行ってみえて、木曽川の利活用そのものについてはいろいろなお話がございますが、各務原市側で気になるのが景観でございます。住宅地に変わってから各務原側の景観がかなり落ち込んできているというんですかね、変わってきているようなところがございますので、これはこの計画とは直接は関係ないかもしれませんが、そういう景観についても御配慮をいただけたらと思っております。以上でございます。

岡田会長

事務局からコメントはあるでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

そうですね、犬山橋トイレの改修は我々犬山市も強く認識していますので、何とか進めたいなと思っております。

あと、内田地区の上段のいわゆる車道と歩道を入れ替えたらどうだという御意見も、昔からそういった御意見、御提案というものもあるなあというのは認識しています。今の時点で車道、歩道を完全に入れ替えるというのは今のところ、予定はないです。現状のほうが歩行空間としてもより魅力が高まると思いますし、樹木の整理など、あるいは高低差を解消すると景観としても、滞在空間と

しても非常に魅力が高まると思っていますので、このままのほうが妥当ではないかと思っています。

一方で、民地側のにぎわいをつくっていくためという観点で、歩道と車道を入れ替えて、人が歩いて民地側のお店などにアクセスできるというのが大事じゃないかという、そんな考えが多分根底にありかと思うんですね、この車道と歩道の入れ替えについては。それについては、やはり民地側のにぎわいというのは絶対に大事ですので、そのために今はまだ技術的に、あるいは費用的に可能かどうかというのは検討が必要ですが、民地から約2.2メートルを歩道として再整備をして、例えば犬山遊園駅からの動線は、民地のすぐ隣に新たに整備する歩道をゆっくり歩いていただいて、お店で買い物なり飲食をしていただき、また車道を横断して遊歩道側に行けるような設えも必要ではございますが、そちらを渡って遊歩道側は抜けのある空間、お城の景観を楽しんでいただくと、お店も一部連担していただき楽しんでいただくと、相互に魅力を高めて楽しめる空間にできたらいいと思っておりますので、今の案でいくと民地側のにぎわいというのも実現できるかと思っておりますので、その辺り何とか実現できるように進めたいと思っております。

岡田会長

ありがとうございます。

そうしましたら、皆さんからの御意見をまず聞き、後でまとめて事務局から回答ということにさせていただきます。

ただ、今ありました対岸側の景観の話は、犬山市と各務原市の景観協議会がまだ活動していると思いますので、そこでの議論でまた高めていただきたいと思います。

それでは、続いて松田委員、よろしくお願いします。

松田委員

まず私が、このかわまちづくりの取組全体の感想という形で見させていただきますと、まさしく憩いの場をつくったり滞在の場をつくるとともに、これは犬山市にとっても自然とか歴史とか文化とか観光、こういったことを踏まえた都市づくりのプロジェクトではないかというふうに考えます。これが実現した折には、市民にとっても本当に大きな財産になるのではないかというふうに考えます。

観光としての意見では、ここの空間が特に民地側の整備がされると、現状では犬山城に登る方が増えて、城下町に特化した反映といいますか、にぎわいになっているんですが、そこがちょっと緩和されて、犬山遊園駅へ続くこの美しい道が新たに脚光を浴びるということで、非常に望ましいと思っております。

今一点集中の城下町から、城下町の回遊性というものの実現できるということで、本当にこれは実現を逆に急がれるというふうにも考えます。

観光としてはそういったメリットもあるんですが、やはり最終的には市長もスローな河川空間を望んでおられるように、ここは犬山市民にとってもスローな、ある意味では憩いの場であったりとか、また滞在の場であるような、そういったところが市民にとっても歓迎される、観光客のみならず市民に利益が行き着くことは、まさしくこのプロジェクトの目的ではないかと思います。

いろいろと今回最終的な計画の中にも、骨子の中にも維持管理計画書というところも39ページにはありまして、この協議会の中において維持管理の団体をつくっていけるような、また管理体制も検討していけるようなところにおいてやっぱりゴールとしていければなど、この協議会が3回で終わってしまうんじゃないくて、その後に役割とか担い手としていけるようなこともあるのではないかというふうに思います。

そういった意味で、観光協会も非常に脆弱な団体で、市からいろいろと御支援いただいております団体なんですが、地域の課題に自分から向かって解決に取り組んでいけるような、そういった位置づけで今回の取組に関わってまいりたいと思っております。

岡田会長

ありがとうございました。
それでは、続いて長瀬委員をお願いします。

長瀬委員

栗栖桃太郎発展会の会長をやらせてもらっています長瀬と申します。

この地図でいうと栗栖地区①は、4年ぐらい前は毎週河原の掃除を実施していましたが、4年前から炭・薪を禁止にしましたので、今は月2回掃除をしています。それで芝生を2回にわたって範囲を広げていて、今また被害が大きいのはイノシシがすごいんです。イノシシがすごくて河原の芝生を削りまくっているんですが、今度大水が出たらまた芝生に影響がありそうです。

それと、先ほどこちょっと観光課から桃太郎港の船着場、あれは私が生まれたときにもうありましたので75年以上前からある。最初は名鉄遊船が造られたのか国が造られたのか、それは分からないですけど、多分、日本ライン下りというのがありまして、それが何年前かなくなりまして、だから、その時点で国が主導で造られたのか、名鉄遊船さんが造ったのかは分からないですけど、何しろもう75年以上前からあります。

キャンプを芝生の広場ではよくやっていたいっているんですけども、今年の夏は暑過ぎて、例年に比べても半分以下です。これから徐々に増えるかなと思っていますけど、今までどおり掃除して芝生の協力をさせていただきたいと思っています。

岡田会長

ありがとうございました。

続いて丸山委員、お願いいたします。

栗栖区長の丸山と申します。

最初に、今日御礼を申し上げたいんですが、木曽川上流河川事務所、井川さん、ありがとうございます。

何がありがたいかといって、あれほど大規模に河川の雑木、それから竹を栗栖の渡しの少し上流、それからちょうど私が住んでいる目の前辺り、野外活動センターより少し上流ですけど、これもう3、4年前になりますかね、本当にきれいに刈っていただきまして、今まで見た景色が一変をしました。

私は16年前に引っ越して、なぜ引っ越したかという、良いところだと思ったからですけど、それが今まで雑木林と竹で全く川が見えなかったんですけど、今見事に栗栖で一番我が家が、景色が良いぐらいになっていて、引っ越してきてよかったなあというようなことを思っています。ここ数年でこの栗栖が気に入って転居された方が4、5名あります。

転居した方は何かやりたいという方が転居している。1人はミラマチの奥さんがお医者さんで、たしかスウェーデンのほうに研修に行って帰ってみえて、今何をやってみえるかという、子どもを集めてミラマチで魚つかみ、虫つかみ、それから芋掘り体験、それからキャンプ、花火大会もおやりになっていて、栗栖小学校の子ども以外にもいろんなところから人が来て、一日中楽しめるということが行われています。

それから、つい最近では栗栖の渡しの少し上流に引っ越してみえた方は、いろんなイベントを工夫してやってくださっていて、地域の行事でも積極的に参加してくださって、夏祭りにはその方がたこ焼きをやってくれるんです。かつて有名な潜龍という長良川にある焼き肉屋がありまして、あそこで板前、合格した方なんです。そういう方が芋煮会をつい最近おやりになって、これも50、60名の子どもや大人たちが市外からやってきて、もう1日近く遊んでいる。別に遊具がなくても、川と畑と山と空き地があれば、子どもはそこで大喜びして1日過ごすんですね、そういう姿を見たりしております。

あと先ほど岡田会長から、この栗栖を野外活動センターも含めてずっと指定したらどうかというお話がありましたが、原則賛成です。河川敷全て美しいので賛成ですが、実行部隊として芝生を刈り、さらに奥でミラマチがやっている竹林の歩道整備をやる人数だけでも今足りないの、さらにここも広げたら活動は少し難しいです、そういう状況があると思います。

あと空き家がいっぱいあるので、ものすごく立派な空き家があるので、例えば小中学生が夏休みに体験学習で2、3日泊まって栗栖周辺で活動するというのもできると思います。

もちろんお貸しする人、それからそれを受け皿として栗栖の人がどれだけ協

力できるかということもありますが、いろいろアイデアがありますけど先ほど岡田会長がおっしゃったように、竹林整備のおかげで見事に河川敷が、栗栖の渡しの上流が見事に赤い地層が見事に見えますので、あれは地質学に長けた方で、ぜひ栗栖の地層勉強会というようなイベントをやっていただければ、子ども、大人含めてやってきて、そのすばらしさを体験できるんじゃないかと思っています。

長くなりましたが、以上です。ありがとうございました。

岡田会長

ありがとうございました。

お二人の委員さんから栗栖の現状だとか、これからのアイデア、魅力をお伝えいただきました。また、これも参考にさせていただきたいと思います。

じゃあ続きまして、安藤委員、よろしくお願いします。

安藤委員

内田町会長をやらせてもらっている安藤といいます。

資料4の表紙をちょっと見ていただきたいんですけども、ちょうど写真がありまして、先ほど木曽川観光の梅村様のほうからお話がありましたように、漏水の話です。今ここに写っているのが一筋ですけども、これもう今は全体に水が漏水しています。水のおかげで藻が生えて人が歩けるような状態ではありません。昔、栗栖の中学生も自転車で通ってみえましたが、今はもうとてもじゃない、通れるような状態じゃないんです。

この前、アメニティの方々が何度か掃除されて草も刈られたということなんですけど、この草に関しても、川面に下りると階段になっていますよね、これ今全体にもう草が生えているんです。とても川面に下りられるような状態じゃないんです。

文句を言っちゃいかんのですが、取りあえず手の届くだけで、階段状のところの草は一斉手をつけていない。

それから、左の法面もこんなにきれいじゃないんですけど、今はもう草が生えています。これも刈っていただきました。

これをもう一度掃除されたら十分な遊歩道になると思います。今これをきれいにされれば、このままでも十分な観光道路になると思います。ここ4、5年漏水が特にひどいです。

この間、それと同時に土砂が出ています。砂状の土砂が出て、それが堆積して、そこに草が生えています。たまった土砂は取り除いてないんです。それをきれいにしていただければ、これはそんな今写真に見える全体に砂がまいてあるという状態です。取りあえずはこれを何とかできればきれいな歩道になると思います。

それと、上の歩道には立派な桜なんですけれども、老木です。車道のほうは

枝が払ってあります。歩道に関しては上にかぶさっていますけど、立派な枝が歩道の上に出ていて枝にもコケが生えています。これは人がぶら下がったときに大丈夫かなというような枝もありました。歩いてみしたら、日本語はほとんど聞こえなく外国人が多いです。特に中国語のような感じがしました、そういう方の観光客が非常に多いです。その方たちが、もし悪ふざけか何か知らないですけども、ぶら下がられたときにどうなるかなとちょっと思いました。その辺の維持管理も取りあえず今できることじゃないかと思います。

それと、最後にもう一つ、犬山市から栗栖までの歩道の整備というのは考えていないんですか。

長瀬委員

歩道はお願いしてあるんですけど、あそこは県道なんです。だから、市にお願いしてもどうも駄目で、市から一応県までは言ってもらっているんですけど、なかなか。

安藤委員

なかなかですよ、これは昔からですね。

長瀬委員

そうです、もう何十年か。

安藤委員

この際ですから、もっと市のほうで動いてもらったりできませんか。もう観光客が犬山市から栗栖まで歩きますよ、今でも歩いてみえますもん。

長瀬委員

危ないですよ。

安藤委員

危ないです、栗栖の中学生のためにも。

丸山委員

これは私も同感で、ここで言っているものかどうかは分かりませんが、あくまで市の事業なので県の道路拡幅とか、そういうことにはなかなかここで話題にしてもですけど、少なくとも内田地区と、それから栗栖の園地、そこに魅力ある人が集まるような活動場所が今後出来ていけば、必要に迫られて、このままではいけないというふうに県や国が動いていただけるような環境をまずつくっていく。

実際、例えば栗栖から犬山遊園まで、景色がいいから歩きたいという都会の方が見えて歩かれたんです。しかし途中で引き返してみえました。こんな危ない、いつ車にひかれるか分からんようなところは歩けないとおっしゃるので、当然高校生、中学生はバスが朝一で乗れるようにもなりましたが、そこは今後何とか、生命を守る、観光客にしろ何にしろ、そういう意味では重要な課題だということは思っていますので、県にそんな動きが伝わっていくといいと思

っています。

岡田会長

ありがとうございました。

計画策定前にいろんなことをということで皆様から御意見いただきましたので、事務局のほうでも内部で御検討いただくなり、担当部局へ御意見としてお伝えいただきたいと思います。

続いて、日比野委員お願いいたします。

日比野委員

犬山朝市組合の組合長をしております日比野と申します。

私どもは、毎週日曜日、木曽川の朝市でもう32～33年になりますが、もともと御存じだと思いますが、犬山の城下町の中で三・八市があつて、犬山へ行けば何でも売っていた時期がありましたが、それが衰退しまして、本当に二十何年前までは猫一匹も通らない町並みを、それではいかんということで復興していくべきだということを犬山市観光協会からお話をいただきまして、じゃあ何かやろうということでいろいろと試行錯誤しながら、今の木曽川の朝市が遊歩道で始まりました。

現状今は通年で1年間、毎週日曜日にやっておりますけれども、朝だけではなくて、ここにも書いてありますように夜のマルシェとかキッチンカーの出店も実施しています。

できればライトアップという言葉も書いてありますが、ライトも普通のライトじゃなくて若干揺らぎのあるライト、かがり火でたいた感じにもなりますし、そこでゆったりとした安らぎを感じていただいて、そこで楽しんでスローな文化ということマッチできるような感じでなっていくと、いろいろインバウンドでの集客も見込めると思いますので、夜の過ごし方を提供できるよう私どもも協力させていただきますのでよろしくお願いいたします。

岡田会長

ありがとうございました。朝だけじゃなくて夜もというようなことで御意見いただいたと思います。ありがとうございます。

それでは、続いて名古屋鉄道株式会社、尾関委員よろしくお願いします。

尾関委員

名古屋鉄道の尾関でございます。地域活性化推進本部というところでございまして、もともと電車で交通というところと、あと観光地づくり、誘客とそれを基にした地域まちづくりを担当しています。

その点でいきますと、ちょっと観光によってお話をさせていただくかと思いますが御容赦ください。

犬山につきましては、いろいろと皆さん御支援をいただきまして取り組んでおりまして、名鉄沿線だけではなく、中部圏の外の方にも選んでいただけるよ

うな観光地づくりをしていきたいと思っております。

ぜひ今回の内田地区はスローな体感をできる場所ですけれども、スピーディーに進められるといいと思っているところでございます。

何といっても観光資源でいきますとやっぱり城と川と、先ほど緑という言葉もありましたけど、そういったものを大切に生かしつつ、水辺の活用なんかを普段から地元の方々にしていただくような環境がやっぱり必要なんだろうなと思っています。

先ほど夜のというお話もいただいておりましたけれども、また夜について、そぞろ歩きができるような雰囲気のあるような空間ができると、それは地元の皆様も当然ですし、また観光で来られた方も外へ出ていこう、まちへ繰り出していこうという意識にもつながっていきますので、ぜひこういった観点でこの計画が進められていければと思っており、微力ながら今後努めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

岡田会長

ありがとうございました。

それでは、今までの説明と委員さんの御意見も含めながら、阿部さんのほうで先進事例等の、何かこういうのも取り組むといいといったことがあったら、ぜひともお聞かせいただきたいと思います。

阿部副会長

リバーフロント研究所の阿部と申します。よろしくお願いします。

私どもの研究所は河川環境とか、かわまちづくりという形でいろんな全国の事例などを研究している組織でございます。

ちょっと座長から今ほかの事例もと言われて、一応ここの、どういうところがいいかなあと思ってちょっと考えたんですけども、まずこんな大河川でまちに近いことがまず1つあるんですね。さらに駅からも近いと、さらに水面にも下りられそうだということで何か非常にバランスがいい立地でして、なかなか全部揃っているようなところは、全国を探してもそんなにはないんじゃないかなと思いました。

加えて城という、国宝という大きい歴史がありまして、何か鬼に金棒みたいな何かそんな、さらに上流の栗栖地区ではアウトドアみたいなのところもあって、そこは川本来の楽しみ方みたいなのところもあって、何か非常にバランスが取れた総合的ないいところなので、ほかの事例がみつからない。いわゆるまずここでオンリーワンというのが非常にいいんじゃないかなあと思ったところでございます。

2週間ぐらい前には事務局の方に2つの地区を案内していただいて、城に登って内田地区を見たんですね。そうすると、結構な何かすごく近いところにあるような感じがして、内田地区を歩いているときは、これは風景の一つみたい

なところがあったんですけども、実際に見ると本当に人が歩いているところまで見えるので、もしあそこで計画されているようにぎわいみたいなものができたら、お城に上った人もそこに歩いていくようなきっかけになりますし、すごくいいなあと思った次第です。

計画書自体も結構バランスよく作られていますし、いろんな住民のワークショップを踏まえてやってきているというのも、進め方としても理想的な感じで来ていると思って、何か課題を出したほうがいいと思ったんですけど、いい取り組みをされていると思いました。

気になったところは、内田地区が洪水のときとかどうなのかと思って、ハザードマップを見たら、犬山市の内田地区は浸水想定区域になっていて、そういったところの解消とかの話ですよ、河川方針等、何か合わせて見ていて、あと防災という観点がもしあるなら地域の人を巻き込んでいく、少しそのきっかけの一つみたいな、何かそういうのもあると思ったので、そういった面も検討いただきたいのかなと思いました。

あと詳しくは、仕組みづくりみたいなところで、皆さん言っていた市民参加、市民をどんどん巻き込んでいくような、エリアマネジメントというところでも事業者さんとか、そういったところに任せがちになるんですけども、市民が参加していくような仕組みは、ぜひつくられていくといいといったことですね。

岡田会長

ありがとうございました。オンリーワンのプランをとということですので、力強い御助言がいただけたと思います。

今までの委員の意見を聞いて、事務局から特にいいですか、何かありますか。

事務局

皆様ありがとうございました。第2回に向けての参考にもさせていただける御提言をたくさんいただきましたので、本当にありがとうございます。

その中で、安藤委員からお話いただいた漏水の話については、課題として非常に重要と考えておりますので、今後の計画書の中にも少し触れておりまして、何とか今回のこの整備の中で解消したいと思っています。

先ほど申し上げた自転車で通ってというのも、転んで危ないですから、歩行者も危ないという状態なので、木曽川上流河川事務所様に御相談させていただきながら、何とか改善していきたいと思っています。

あと草生えも、7年前に観光に来たとき、もうちょっと、そんなに生えていないというか、ましだったんですけど、今、草刈りも回数を倍ぐらいに増やしてやっているんですけど、それでも追いつかないぐらいの草が生えてきちゃっているんで、何かこの地下の状態が少し変わっているとかいろいろ調べなきゃいけない。また維持管理の面ではやっぱり草刈りなんかも、それはやればやる

	だけ効果がありますので、利活用を進めるにあたって、本当に回数をもっと増やして、快適な空間をつくれるように頑張っていきたいと思います。
安藤委員	地中の水分量が多いのか何か分かんない、気候のせいなのかよう分からんですけど、本当に草がよく生える。
事務局	そうですね。 何にせよこの計画で整備をして、また次の20年、30年、50年快適に暮らせるすばらしい空間に内田も栗栖もしていきたいです。本当に御意見ありがとうございました。 あと、犬山橋から栗栖までの歩道の整備については、確かにこの計画の中で直接触れていることはなかなか難しいんですが、ただ、折に触れてこの課題というのは、我々も市の職員をやっていて何度も直面しています。こういった場でもいろいろ市民や委員の皆さんから意見をいただくというのはやっぱり大事だと思いますので、また担当部署やいろんな各方面に投げかけて、こういった場でも意見をいただいたというのは共有して、何とかできるといいというのは同じ思いですので、いただいた意見をつなげていければと思います。 皆さん、御意見本当にありがとうございました。
岡田会長	ありがとうございました。 今日はオブザーバーという形で木曽川上流河川事務所の井川総括保全対策官にも来ていただいております。 今までの説明やそれから委員の皆さんの意見を聞いていただいて、何かコメントいただければと思います。よろしくお願いします。
井川オブザーバー	ありがとうございます。木曽川上流河川事務所でございます。 皆さんの活発な御意見を今日お聞きしました。犬山市からも何年も前から基本構想を策定されて、実際実証実験について試行的にいろいろ工夫をされて、ということが実際、成功するのかなというようなことで、いろいろ御検討されていることを伺っております。 先ほどリバーフロントの阿部委員からお話しありましたが、この場所は非常に国宝犬山城もある城下町ということで、かなり魅力のあるまちだと思っております。そういったなか、かわまちづくりとしての計画を策定して、夢を形に成功するような形で今後とも引き続き支援のほうをさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。
岡田会長	ありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いいたしますと思いま

す。

それでは、時間も少なくなってきましたけど、もう一つ協議事項がございます、アンケート調査についてということでございます。

事務局のほうから説明のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

(資料説明)

事務局

本日欠席の商工会議所の奥村委員からも今回の御意見をいただいております、共有させていただきます。

今回欠席で申し訳ありませんということとともに、計画自体は商工会議所の立場としてはにぎわいづくりという意味で非常に好ましいと、内田については特に店舗の連担というのが非常に遊歩道の中も、あと民地の中でも臨んでいきたいというところと、飲食ができるような椅子やテーブルの休憩スペースもあるといいというところでもございました。あと足湯ができるとすごく景観もいいし、とてもいいですねというコメントもいただいております。

あとは、栗栖についても現状のキャンプ施設のほか、桃太郎神社についてもさらなる発展を会議所としても願われておりますので、栗栖エリア全体で竹林も含めてよい場所になるといいということで御意見いただいております。以上になります。

岡田会長

ありがとうございました。

このアンケートについては、すぐ実施というようなことで、11月25日がもう締切りということになっていますが、何件送付されるんでしたっけ。

事務局

全部で約2,000弱ぐらい出そうと思っております、栗栖と内田については、全世帯というのはちょっと予算上難しい部分もありますので、7割、8割ぐらいの世帯にお配りして、それ以外は地区別で犬山や城東地区など、人口バランスに応じて無作為抽出で送付する予定ですので、全市が対象になっております。

岡田会長

ありがとうございました。

多分次回の会議のときには、このアンケートのほうもある程度、速報が出ると思っておりますので、よろしくお願いします。

これで議題は全て終了をさせていただきます。

私が所属している大学からのPRですが、犬山の名古屋経済大学の学術研究センターをつくるときに名前をどうしようと悩みました、正直言って。最初は木曽川学研究センターというのをつけようと思っていたのですが、御承

事務局

知のように14、5年前に各務原の森市長が提唱されて、木曽川中流域の各自治体が加盟したのが木曽川学研究センターということでございましたので、私どもは犬山学研究センターということで今活動が続けております。

ただ、やっぱり犬山という行政区域で区切るんじゃなくて、やはり木曽川があり、そこで自然、植生、文化、歴史、様々に織りなしておりますので、犬山学と名をつけて木曽川を中心にした研究をしております。

その1つは、御案内にありますように、小牧・長久手の戦いのときに、両氏軍が陣地をひいた内久保砦というのが、まさに今本学が建っているところが内久保砦のあったところでございまして、そこで金森長近がそういう陣を張ったということで、今回金森長近をテーマに特別展と講演会を開催させていただこうと思っています。

特別展が11月15日から1月10日、本学の図書館で行い、講演会につきましては、11月15日16時40分から本学の講堂で開催させていただきますので、御時間があります方はぜひお越しください。貴重な時間をいただいてPRをさせていただきました。

それでは、この進行を事務局のほうにお返しします。よろしくお願いいたします。

岡田会長、会議の取り回し、誠にありがとうございました。

皆様におかれましても、多くの助言、御意見いただき、本当にありがとうございます。こういった意見は必ず計画に生かして、いい計画にしたいと思っています。

また、残り2回の会議についても皆様引き続き御力添えをいただければと思います。繰り返しですが、2回目は年が明けた1月30日、時間は同じ午前10時から、会場は205会議室となっておりますので、よろしくお願いいたします。

この会議を経て、計画をつくって必要な整備等体制を整えて、阿部先生がおっしゃったようにオンリーワンの空間をつくって、日本で一番美しい河川空間をつくり上げると意気込んでおりますので、内田の栗栖の両方で海外からも、日本国内からもいろんな人に称賛される空間づくりができるよう目指したいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、これで終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上